

勇新丸が大阪に入港

— 共同船舶株式会社 —

ニタリクジラの生肉を荷揚げ

共同船舶(株)の日新丸と第三勇新丸が、9月中旬に仙台港からの出港を皮切りに今年3回目の捕鯨操業を開始し、第三勇新丸が三陸沖で捕獲したニタリクジラの生肉を母船の日新丸で加工し、洋上で勇新丸に転載、10月12日に大阪港中央突堤（天保山）で荷揚げされた。

生肉は低温で熟成を進めながら搬送し、今回は（コンテナ3個）1.2トンの生肉を荷揚げした。大阪市場にニタリクジラの生肉が流通するのは35年ぶり。市場業者からは「ハリハリ鍋は大阪発祥といわれており大阪の人には喜んでもらえる」と期待している。生肉の色目も脂乗りも素晴らしく、品質のよさがすぐに分かり、最高の生肉」と絶賛の声も上がり、今回荷揚げした尾肉は高値で取引された。

勇新丸の乗組員からは「鯨は大自然からいただき、古くから食べてきた文化があるので、若い世代にも関心を持ってもらいたい。また、安定して市場に出回るようにするには、鯨の捕獲枠の拡大が必要」との現場の思いが語られた。11月中旬には下関港に入港予定で、水揚げが期待されている。

「海員だより」